

「経熱」下の中国市場と日本企業

WTO加盟後の中国では、国営企業の民営化と市場の開放で企業間の競争が激化している。中国市場で日本企業が成功するための戦略戦術は何か。国有銀行改革の現状は。主要都市で活動する、邦銀現地支店長の観察は。

中国市場で勝ち組となるために

現地化の徹底、現法権限の強化、自らの体質改革

WTO（世界貿易機構）加盟後、中国では市場経済の進展とともに国営企業より民営企業が勢いを増してきた。民営企業は熾烈な競争をしつつ協調もする。かつ民営企業の成長と自立により、「官」と「民」という概念が形成され、官民の分離が始まっている。国内市場の一層の開放につれ競争が激化する状況のもとで、日本企業が中国市場で成功するには何に留意すべきであろうか。はつきりしていることは、業種別、地域別の成功パターンや安直で簡便なハウツーものはないということだ。何を獲得するかといった明確な戦略をもち、自分が事業をつくっていくという気概をもつことが大切である。



愛知大学
現代中国学部教授
服部 健治

中国市場における チャンスとリスク

拡大する市場規模

輸出型の委託加工企業は、こ

れまで日本企業の主流であり、経験も豊富、エンドユーザーも確保されているので成功例は多い。他方、中国市場で製品を販売する国内市場指向型は、苦戦している事例が少なくない。しかし、これからの本流は中国市場での販売である。台頭する「市場としての中国」を見極めなければならぬ。それにはチャンスとリスクが共存する。それでは中国市場

においてチャンスとはいったい何か。

まず、WTOとの約束事項の履行に多くの外資が注目している。流通分野では〇四年一月に外資一〇〇%の販売会社が認

国有銀行改革と預金の動向が 危機回避のカギ

市場メカニズムを機能させるには政府の役割を見直す必要

中国の金融機関が深刻な問題を抱えながら、システミック・リスクが顕在化しないのは、商業銀行が実質的に政府に所有されていることに加え、預金が継続的に流入する構造になっているからだ。九二年以来の市場経済化の目的は社会主義体制を守ることにあり、中国政府が金融資本市場の育成に本腰を入れているとはいえない。しかし、政府が管理できない資金の流れが増大していることは預金者の静かな反乱とも考えられ、個人の動向を注視する必要がある。



日本総合研究所
上席主任研究員

高安 健一

過剰なまでの資金供給

中国の金融システムが数多く
の問題を抱えていることは、ま
ぎれもない事実である。昨今、
四大国有商業銀行の不良債権処
理が為替制度改革に先立って行
われるべきだとの議論が活発に
なっている。コーポレートガバ

ナンスの欠如が問題視されてお
り、政府は繰り返し綱紀粛正を
訴えている。地方政府は中央政
府の意向に反して、非効率な投
資を拡大している。しかし、幾
多の問題を抱えながらも金融シ
ステミック・リスクに陥ること
なく、商業銀行は過剰なまでに
資金を供給している。

金融システムの脆弱さにもか
かわらず、危機が回避され資金
が潤沢に供給されてきた理由と
して、政府が商業銀行を所有し
その信託を補完していること、
ならびに四大国有商業銀行（中
国銀行、中国建設銀行、中国工
商銀行、中国農業銀行）に継続
的に預金が流入していることを

指摘できる。ところが、今後市
場経済化を伴った金融改革が本
格化するにつれて、「奇妙な安
定」が揺らぐおそれがある。

国有二行の経営再建策

中国では、高い経済成長が続
いている間に国有商業銀行の健
全化と競争力強化を達成し、持